



# まこと館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

## 理事長閑話 埋め草⑥9

～試験センター理事長としての8か月～

まこと館だより 8月号No.68号で報告した通り、私は以前から多少関係していた社会福祉振興・試験センターで、昨年6月から非常勤理事長に就いています。関係というのは社会福祉士制度が出来た1987(昭和62)年以前から資格制度の創設の運動に関わり、センターが実施する試験問題作成委員を長く勤め、同じく2000(平成12)年の介護保険に合わせた居宅介護支援専門委員の現任研修受講試験の問題作成にも当初から関わってきました。また日本社会福祉士会の会長にあった時代からセンターの評議員も務めてきました。そんな経歴からご縁があったお話でした。

依頼があった時、最初に思ったのは本法人の75歳理事定年規定。2021年6月で私は至誠学舎立川理事長を退任です。そこで福祉の第一線を引くのだと思っていたので正直複雑な思いでした。相談をした旭常務理事から「法人にとっても名誉で、メリットもあると思います。」という言葉に背中を押されました。そこで2021年6月までは原則週に1日の勤務、以後は週2日という約束で現在に至っています。

センターの業務は、第一には社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の国家試験の問題作成・実施・登録、そして居宅介護支援専門員の現任研修受講試験問題作成です。その他当法人も加入する従事者共済、福祉医療機構貸し付け債務保証、確定拠出年金運営、「介護福祉」誌の発行、人材育成として3福祉士及び管理者の海外派遣研修、研究助成等多岐にわたります。また5年毎に3福祉士の就労実態調査を実施しています。この調査結果は国の福祉人材政策に重要な資料となります。今年度がその実施年度に当たり、昨年11月全資格者約200万人に対して郵送による悉皆調査、費用は全額センターが積み立てた資金を使用して予算約3億円の調査でした。結果は回答率約44%という高回収率で皆様のご協力に感謝です。調査報告は6月ごろに発表になると思います。資格をお持ちの方に私の名前で調査ご協力をお願いしたのでご存じの事でしょう。

さて、今年も介護福祉士の国家試験が1月31日、精神保健福祉士と社会福祉士の試験は2月6日、7日に実施されました。日本全国での実施、北国は大雪、コロナ禍、緊急事態宣言下での全国一斉試験、介護/59か所、精神・社会福祉士/39か所の会場でした。試験総本部長として前日からセンターに詰めておりましたが緊張で疲労困憊でした。あとは2月7日介護の実技試験が東京、大阪の2か所で少数の人たちの実技審査で終わり、結果の発表です。3福祉士合計受験申込者約15万人にもなる大試験でした。合格率は従来介護が約70%、社会福祉士約30%、精神約60%です。特筆すべきは介護でルビ付き外国人用問題用紙利用者の試験時間を50%延長したり、3福祉士とも障害への配慮受験が組まれたことです。新たに資格を取得される人材が福祉現場の人材難解決に役立ってくれることを切に祈ります。

以上私の試験センターでの業務に就いてご報告です。

理事長 橋本正明

## 事業本部長メッセージ

立川公園の多摩川を渡る爽やかな風の向こうに真白に輝いた富士山と山並みの稜線がはるか遠くまで見渡すことができる。今まで眺める程度の興味だが、調べてみると世界遺産の富士山は別格としても日本の名峰を居ながらにして臨むことができるのだとわかる。「大菩薩嶺」2056m、小説大菩薩峠で有名。「三頭山」1527m東京、奥多摩にあり。「大岳山」1265m見方では横顔に見え、まこと館からよく見える。「雲取山」日本の百名山で2017mと東京の最高峰等。雄大な自然を吸収しパノラマに溶け込むことができるのは楽しい。

新型コロナ第三波も峠を超えたかのように減少の兆しがみえはじめてきた。ワクチンの接種も始まっている。光は見えてきているが警戒事態宣言下の緊張感で安心はできない。自粛生活も長引き疲れ溜まるこの時期、少し視線を遠くに向け気分転換。至福の時を過ごしては如何でしょう。至る所で花鳥風月、味わえます。

年度末の慌ただしい時期です。ご自愛ください。

保育事業本部長 稲永勝行

町から見える山 2001/11/27 多摩都市モノレール(立川市)から



令和3年、施設内の行事に新しい生活様式 オンライン機能の活用を始めてみました。オープニングは元旦式。例年1階ホールに集まり、新年の顔合わせ、おせち料理を食べ、一人づつ一年の抱負を述べていたのを、各ホーム(6ヶ所)と1階事務所をZoomで繋ぎ、一人ずつ画面上で挨拶を交わし合いました。初めて体験するオンラインに緊張気味の子、面白がっている子などいろいろな顔が映し出され、楽しい新年の始まりでした。今年成人を迎えた人は4名。毎年、女子に成人式の振袖を貸して下さる呉服屋さん(国際ソロプチミスト日野の方)は、この状況下にもかかわらず、快く3名の成人者の願いを叶えて下さいました。自分で振袖を選び着付けてもらい艶やかな振り袖姿で訪れた3人の顔は、本当に嬉しそうでした。「自立して一人で頑張っている女の子の節目を応援させて下さい」とお店の皆さんが協力して下さいました。地域の皆様の温かい応援が、彼女たちの心にしっかり届いたとお礼状に書いていました。今年受験生は中学3年生ばかり5名。いよいよ高校入試が始まりました。神様、無事5人に吉報が届きますよう、宜しくお願い致します!

(至誠大空の家 施設長 国分美希)

### 保育事業本部

社会福祉法人制度改革と期を同じくして、平成29年から厚生労働省のガイドラインに基づき東京都主催で中堅職員を対象とした保育士等キャリアアップ研修が始まった。研修科目に、保育士の専門6領域に加え「マネジメント」がある。そのねらいは「主任保育士の下でミドルリーダーの役割を担う立場に求められる役割と知識を理解し、自園の円滑な運営と保育の質を高めるために必要なマネジメント・リーダーシップの能力を身に付ける」とされ、その内容は、①マネジメントの理解、②リーダーシップ、③組織目標の設定、④人材育成、⑤働きやすい環境づくり、を柱とした15時間の研修である。マネジメントといえば、弱小高校野球チームがドラッカーの「マネジメント」を学び成功するとしたNHKアニメ「もしドラ」があった。中堅職員のマネジメント学習により保育園チームのレベルアップが期待されているのか。保育士だけでなく管理者側のキャリアアップ・能力向上が問われるのは言うまでもない。当保育事業本部の園長は全員、全社協の「福祉施設長専門講座」でマネジメントを学び「福祉施設士」資格を取得しており、主任等とともに「福祉経営塾」や「QC個別指導」等マネジメントに関する研修を受けてきている。制度改革への適応と全職員のキャリアアップ策の広がりが望まれる。

(至誠保育福祉研究所長 高橋 紘)

### 高齢事業本部至誠ホーム

年明けごろから都内の新規感染者数における高齢者の比率が高まって来ました。実際、立川市近辺の高齢者施設や病院等でもクラスター発生の情報が相次ぎ、至誠ホームの各施設・事業所では一段と緊張感が高まりました。一度施設内で感染者が発生すると、感染が疑われる多くの介護職員が自宅待機となり、すぐにサービスの提供が困難な状況になることが予想されます。このような事態を受けて、東京都の制度の後押しもあり、各区市町村で施設間の職員応援派遣体制の検討が進められています。

立川市でも特養を中心とした施設長会において、感染者が発生した際の応援派遣協定について申し合わせをしたところです。立川市版は派遣する側の施設へのウイルスの持ち込み等に配慮し、感染エリアへの応援体制は法人内で対応し、他法人からの派遣は原則非感染エリアとしていることが特徴の一つです。もとより応援派遣しなければならなくなるような事態が発生しないことが一番ですが、コロナ禍において、法人間・施設間の協力の枠組みが作られたことは、一つの明るい成果であると考えます。

(至誠ホームキーツ 園長 大友正樹)

### 本部事務局だより

#### ～わきまえる～

すったもんだの挙句、女性蔑視発言で辞任したオリ・パラ組織委員会の森喜朗会長の後任が五輪担当相の橋本聖子氏に決定した。そもそも会長は、理事の中から理事会で選任される。またその理事は、評議員会で選ばれるのがガバナンスである。従って、現に理事でもない橋本氏も川淵氏も現職を辞任して、評議員会で理事に選任されたのち理事会で会長に選任されなければ、会長になりようがないのである。しかし、それらをすべてすっ飛ばして森会長が勝手に指名したり、政府が口出ししたりすることはできないのが筋である。そうでなければ評議員会は、森氏や政府が決めた人事をただ追認する機関にすぎなくなってしまう。森氏は、会議で発言しない女性を「わきまえておられる」と評したが組織委員会の評議員は「わきまえておられる」方々ばかりなのだろうか。候補者検討委員会が推薦しようが、森氏あるいは政府が推薦しようが、選任する責任と義務が評議員・理事にある以上、評議員・理事の善管注意義務は免れない。それ以前に「わきまえない」発言をする森氏を会長に選んだ理事には選任した責任があり、その理事を選んだ評議員の責任が問われる問題である。ガバナンスや責任の所在にうるさい外国人の目には、日本は不思議の国に映るだろう。

(法人事務局長 野島忠幸)

(編集後記) いやおう無しにオンラインの研修会や勉強会が導入されていますが、このままこれで良しとなってしまうのは、寂しいかもしれません。はやくコロナには退散してもらって対面でいろいろなことができますように。(雲)

